

広島市スポーツ振興計画見直し案（たたき台）

推進施策等	委員の意見(要旨)	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等																							
第1章 計画の策定に当たって 2 計画の位置付け		(1) この計画は、スポーツ振興法(昭和36年法律第141号)に基づく スポーツ基本法(平成23年法律第78号) に基づく広島市のスポーツ振興に関する計画です。	● スポーツ基本法附則第3条の経過措置の規定により、改正前のスポーツ振興法の規定に基づき策定した本計画は、スポーツ基本法附則第3条の経過措置の規定により、改正後のスポーツ基本法の規定に基づき策定した計画とみなされる。																							
3 計画期間		目標年度は平成32年度(2020年度)とし、計画期間は平成23年度(2011年度)から平成32年度(2020年度)までの10年間とします。 なお、中間年には進捗状況を踏まえ、見直しを行い、必要に応じて計画を変更します。	● 中間年に見直しを行う旨の文言は、この度見直しを行うため削除する。																							
4 計画の見直し	<p>◎ 見直しの視点において「職場スポーツの促進」を盛り込むことについて</p> <p>ア 職場で健康増進を図るとともに、職場コミュニケーションやメンタルヘルス向上に向けて職場スポーツ・レクリエーションを促進させるという視点を取り入れる。</p> <p>イ 今の時代は、人に気兼ねをする人と関わるようなスポーツの仕方はフィットしない。仕事の休憩時間などで個人が好きな時にスポーツをする。行政は、場所を含め個人がスポーツをやりたい時にやれる環境を整備してあげる。</p>	<p>この計画は、計画策定から5年が経過し、中間年に当たる平成27年度に、計画の進捗状況の検証、市民意識調査結果の分析及びスポーツを取り巻く環境の変化等を踏まえて見直しを実施するものです。 この計画の見直しは、主に次の視点により行っています。</p> <p>(1) 健康寿命の延伸の必要性 平成22年の広島市の男性の平均寿命は79.93年、健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)は69.96年となっており、その差は、9.97年となっています。同様に、女性では、14.67年となっています。 なお、全国の平均寿命と健康寿命の差は、男性が9.13年、女性が12.68年となっています。 広島市の平均寿命は、男女ともに全国よりも長く、健康寿命は、男女ともに短くなっており、結果として、広島市の平均寿命と健康寿命の差は、全国よりも大きくなっています。 こうした状況を広く市民に周知し、市民一人一人が、生涯を通じて心身ともに健康で自立した生活を送ることができるよう、スポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づける取組が必要となります。 この計画において、既に健康寿命の延伸に寄与する取組を実施していますが、今後は、健康福祉部局等と連携して、日常生活において健康増進につながるラジオ体操の普及・促進や自転車利用の促進を図るなど、これまで以上に健康寿命の延伸につながる取組を効率的かつ効果的に推進します。</p> <p>平成22年の広島市の平均寿命と健康寿命</p> <table border="1" data-bbox="1448 1270 2050 1434"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>男女別</th> <th>平均寿命(A)</th> <th>健康寿命(B)</th> <th>(A)-(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">広島市</td> <td>男性</td> <td>79.93年</td> <td>69.96年</td> <td>9.97年</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>86.86年</td> <td>72.19年</td> <td>14.67年</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">全国</td> <td>男性</td> <td>79.55年</td> <td>70.42年</td> <td>9.13年</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>86.30年</td> <td>73.62年</td> <td>12.68年</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたスポーツに対する市民意識の高揚 この計画の目標年度が、折りしも、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年に当たることから、同大会の開催を契機として、出場国・地域の事前合宿等の誘致を行い、スポーツに対する市民意識の高揚を図るとともに、同大会終了後も継続的にスポーツに親しむ市民が増加する取組やジュニア選手の競技力向上への意識高揚につながる取組などを積極的に実施し、広島市のスポーツ振興を図ります。</p> <p>なお、平成23年3月に策定したこの計画は、既にスポーツ基本法の理念を盛り込んでおり、同法の制定に伴う見直しは文言の変更のみとなっています。</p>	区分	男女別	平均寿命(A)	健康寿命(B)	(A)-(B)	広島市	男性	79.93年	69.96年	9.97年	女性	86.86年	72.19年	14.67年	全国	男性	79.55年	70.42年	9.13年	女性	86.30年	73.62年	12.68年	<p>● 計画見直し検討部会の審議結果を踏まえ、計画の見直しを行う理由の説明について記載する。</p> <p>● 見直しの視点としては、大きな方向性を示すこととし、具体例の表記はしないこととする。 個人やグループが運動やスポーツをやりやすい環境づくりについては、第4章-2-(1)ーイに追記することとする。</p>
区分	男女別	平均寿命(A)	健康寿命(B)	(A)-(B)																						
広島市	男性	79.93年	69.96年	9.97年																						
	女性	86.86年	72.19年	14.67年																						
全国	男性	79.55年	70.42年	9.13年																						
	女性	86.30年	73.62年	12.68年																						

推進施策等	委員の意見(要旨)	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等		
<p>第4章 推進施策 2 施策の内容 (1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興</p>	<p>【数値目標1の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 広島市は「スポーツ王国広島」を目指しており、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、70%とすべきである。 ◎ 数値目標を5%上げるのであれば、根拠が必要である。 ◎ 現行のままでもよいが、世代別に見ると、U字カーブとなっており、特に30～40歳代の数値が低いため、70%に上げるのであれば、年代別の目標を設定すべきである。 ◎ 若い世代の間、スポーツに親しむ経験や動機付けをしておき、仕事や子育て等で一旦スポーツから離れたとしても、いつでもスポーツに復帰できる環境づくりが必要である。 ◎ 健康寿命という視点からも考える必要がある。 	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">数値目標</td> <td>週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を6570%以上にします。</td> </tr> </table>	数値目標	週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を 65 70%以上にします。	<ul style="list-style-type: none"> ● 次のとおり、新たな取組を実施することにより、目標年度に達成できると考える。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康寿命の延伸を目的として、子どもから高齢者までライフステージに応じた身体的な運動を推進していくことにより、スポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づけることに取り組む。 例えば、ラジオ体操を通年で実施できる環境づくり、自転車利用の促進を図る取組、エスキーツ等のニュースポーツ等の普及などを実施する。 (2) 本計画の目標年度に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、市民のスポーツに対する意識も高まることから、今後、こうした気運を盛り上げる取組を実施する。 また、同大会終了後においても継続してスポーツに親しむ市民が増加する取組、及びジュニア選手が自らの競技力を高めようとする意欲を高めることにつながる取組(世界のトップのプレーを観る機会等の提供等)などを実施する。
数値目標	週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を 65 70%以上にします。				
<p>ア 市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくり</p>	<p>【総合型地域スポーツクラブ等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 総合型地域スポーツクラブが地域のコミュニティの核として発展するために、生涯スポーツの地域サークルや高齢者施設の体カづくり等と連携した取組を推進し、競技スポーツとのバランスを図る。 ◎ 総合型地域スポーツクラブの原型は、大学のサークルのようなものであると思う。大学のサークルに一般市民も参加できるような機会があればよい。 <p>【スポーツ施設の利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 毎年1回「スポーツセンター祭り」を開催し、地域の町内会、社会福祉協議会及び民生委員・児童委員と連携を密にし、福祉、健康づくりの取組をスポーツセンターで実施してもらい、日頃スポーツに縁のない生活をしている市民に施設に来てもらい、スポーツに触れる機会を作る。 また、東区スポーツセンターをランニングステーションに指定し、シャワー室及び更衣室を設け、市民ランナーに利用していただく。 ◎ 託児所を設置するのは難しいが、交代で面倒を見てくれる人がいると、スポーツに参加しやすい。 ◎ スポーツ関連施設において、敷地内及びその周辺地域を全面禁煙とし、スポーツ施設内で販売する飲料を健康的なものに制限する。 ◎ スポーツ協会では、館長が、福利厚生でスポーツセンターを利用してくださいというような企業回りをしてPRしている。 <p>【スポーツ・レクリエーションイベントの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 特徴的なスポーツを区ごとに広め、スポンサーをとるなどしてポイント制を実施する。こうしたイベント等を実施するに当たり、区役所等の体制強化を行う。 	<p>(ア) 総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ * 総合型地域スポーツクラブの設立・運営に当たり、ホームページの開設や活動場所・指導者の確保などの支援について検討しますを行います。 <p>(ウ) スポーツ施設の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツセンターについて、ロビー等の空きスペースの有効活用や地域団体等と連携した託児サービスなどにより、子育て世代の親が気軽にスポーツを楽しむことのできる環境を整えるとともに、スポーツ活動のみならず、地域の町内会や社会福祉協議会、民生委員・児童委員等と連携を密にし、地域コミュニケーションの場としての機能も有する地域スポーツの拠点施設を目指します。 ○ 企業の福利厚生の一環として、スポーツ施設を利用してもらうための取組を行います。 <p>(エ) スポーツセンター等でのスポーツ教室等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なスポーツニーズや技能レベルに応じ、民間スポーツクラブとの連携等により、多様なスポーツ教室等を開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合型地域スポーツクラブに係るホームページは既に作成済みであり、また、活動場所の確保等に係る支援を行っている。 ● 委員の意見は、「(ア) 総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力」の項目に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● スポーツセンターが、地域コミュニケーションの場としての機能を有するための方法について、具体的に記載することとする。 なお、「託児サービス」についての意見は、具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● スポーツ施設において、敷地内全面禁煙を実施することが望ましいが、広島市の方針(施設内全面禁煙)以上の基準を設けるに至っていない。 また、スポーツ施設内の自動販売機や売店は、指定管理者の財源となっていることから、指摘されたような制限を設け難い。 ● 平成26年度、民間スポーツクラブと連携し、同クラブの有資格指導者にスポーツセンターで実施する教室の講師を依頼する取組を行っており、今後、同取組を促進していく。 ● 委員の意見は、「(ウ) 身近にある海や川、山を利用したアウトドアのスポーツ・レクリエーションイベントの実施」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 		
<p>イ 健康寿命の延伸のための健康づくり・体カづくりに向けたスポーツの振興</p>	<p>【ライフステージに応じた健康づくり・体カづくりによる健康寿命の延伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する。 高齢者施設の介護教室等を一種のスポーツとの見方をすると、地域で恩恵を受ける人が広がる。 ◎ シニアデーを設けて利用料無料でシニア向けスポーツ教室を開催し、スポーツに親しむきっかけづくりを進める。 ◎ スポーツから距離を置いている人たちに積極的に働き掛けながら、スポーツをする人を増やしていく施策に切り替える必要があり、ニューエルダーを中心に、学区単位で元氣クラブを設置する。 <p>【日常的にスポーツに取り組む動機付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 若者のスポーツをしない理由は、「一緒にスポーツをする人がいない」、「時間がない」であるが、地域の企業や団体に協力をいただき、行政が、職場のスポーツ推進担当者のための研修会を開催し、職場を中心に昼活でスポーツをしようというキャンペーンを行う必要がある。 ◎ 職場環境の中でのスポーツへの取組(通勤、昼休み等の利用)ができれば、勤務状態におけるプラスαができる。 	<p>イ 健康寿命の延伸のための健康づくり・体カづくりに向けたスポーツの振興</p> <p>(ア) 子どもから高齢者までのライフステージに応じた健康づくり・体カづくりのための事業等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民が日常的にスポーツに取り組む動機付けとなるよう、地域団体や企業のほか健康福祉部局等と連携し、健康増進につながるラジオ体操やウォーキング等の促進に取り組むとともに、自転車利用の促進に取り組めます。ウォーキングやジョギング等の取組状況に応じた顕彰制度を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「健康寿命の延伸」を表題に使用する。 「ライフステージに応じた」という文言は、スポーツ基本計画の基本方針及び広島県スポーツ推進計画の対応方針に記載されているので、盛り込むこととする。 ● 委員の意見は、「○ 健康ウォーキングや健康体操等の指導を行うアクティブシニア健康増進リーダーを養成するとともに、老人クラブや社会福祉協議会等と連携・協力し、高齢者の健康づくり・体カづくりのための事業を実施します。」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● 以下の3点を踏まえて見直しを行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 普段運動をしない人に対するアプローチ方法の検討 (2) 誰でもできる運動(ラジオ体操等)の普及・促進 (3) 自転車の利用の促進 各委員の具体的な意見は、事業展開に対する提案として承ることとする。 ● 平成23年度、顕彰制度に係る事業展開を行わないこととしたため削除する。 		

推進施策等	委員の意見(要旨)	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等
	<p>【自転車利用の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 広島市は、自転車での移動が文化としてあり、生活の足として定着している。健康寿命と関連させたりし、ポイント制のようなものはできないか。 ◎ 自転車利用を促進する場合、自転車置場の話が必ず出てくるので、対応策が必要である。 ◎ 30～40歳代の専業主婦へのアプローチとして、自転車で、今日はスポーツ感覚で一本向こう筋のスーパーに行ってみようとか、そうした運動量を計算できたりすればよい。 ◎ 距離を入力するとどこまで行ったというような、遊び感覚でウォーキング等ができるアプリがあれば面白い。 <p>【ラジオ体操の普及・促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ラジオ体操を復活させる等、子どもがスポーツに馴染むきっかけが必要である。 ◎ そもそも子ども会がないが、子ども会がなくなった後、自治会において通年でラジオ体操を実施している。夏休みは、小学1年生から80歳代までラジオ体操に参加しており、以前よりも参加人数が増加した。 ◎ 大人の世界ではラジオ体操が大変なブームである。 ◎ 出て行かない人、掘り起こされていない人たちと町内会等がどう絡んでいくかが重要であり、スポーツだけが健康づくりではないので、ラジオ体操の見直し・普及は面白い。 ◎ 自転車のように、ラジオ体操も「100万人ラジオ体操都市宣言」のようなものを掲げてはどうか。 ◎ 以前は、会社でラジオ体操をやっていたが、今は製造業くらいである。 ◎ 社会運動的にやる必要があるため、キャンペーンを張るのがよい。 <p>【情報提供及び職場スポーツの促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 特に企業の福利厚生担当に対して、健康づくりや体カづくりに関する情報提供が非常に重要である。周知方法は、研修会、ペーパー、ネット等いろいろある。 ◎ スポーツ協会では、館長が、福利厚生でスポーツセンターを利用してくださいというような企業回りをしてPRしている。【再掲】 ◎ 職場で健康増進を図るとともに、職場コミュニケーションやメンタルヘルス向上に向けて職場スポーツ・レクリエーションを促進させるといった視点を取り入れる。【再掲】 ◎ 今の時代は、人と関わるといふ人々に気兼ねをするスポーツの仕方はフィットしない。仕事の休憩時間などで個人が好きな時にスポーツをする。行政は、場所を含め個人がスポーツをやりたい時にやれる環境を整備してあげる。【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康づくり・体カづくりに関する市民への情報提供などについて情報について、民間スポーツクラブとの連携を検討します。健康福祉部局と連携し、市民や地域団体、企業等に対して広く提供し、その周知を図るとともに、個人やグループがいつでも気軽にスポーツができる環境づくりに取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どものラジオ体操の促進について、第4章-2-(1)-I「地域における子どものスポーツ活動の促進」に盛り込む案もあったが、当該項目では「支援」を行うことを中心に記載されており、趣旨にそぐわないため、当該項目には盛り込まないこととする。 ● 体育の日などに地域や企業等を巻き込みキャンペーンを張る等、関係機関等と連携してラジオ体操の促進を図る取組を実施する。 ● 現在の施策は、民間スポーツクラブと連携して市民への情報提供などを行うこととしているが、御指摘のとおり、あらゆる方法により情報提供することが必要であることから修正する。 ● 現在、スポーツセンターにおいて、スポーツ教室の講師を民間スポーツクラブの有資格指導者に依頼する取組については、第4章-(1)-A-ア(エ)に追記する形で修正する。 ● スポーツ施設の利用促進に係るスポーツ協会の取組について、第4章-(1)-A-ウに盛り込むこととする。 ● 見直しの視点において頂いた「職場スポーツ」の促進に係る取組について、盛り込むこととする。
<p>ウ 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進</p>	<p>【障害者・健常者が共に楽しむことのできる行事の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ひろしま国際平和マラソンは、競技用でなく普通の車椅子でも参加可能であるが、参加者がなかなか増えない。 ◎ PRしていく必要がある。お父さんと一緒に手をつないで走る感じ、雰囲気づくりが必要。 <p>【障害者スポーツの普及・振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 第50回織田記念陸上大会で、障害者の種目やレースを実施しようと働き掛けている。市民の皆さんに見てもらう機会が少ないので、そうしたスポーツ大会において、サブイベントになるかもしれないが実施する。 ◎ 障害者が地域で活動していける環境づくりが進めばよい。そうした事業を普及させていく必要がある。 ◎ いわゆる出前講座のように、障害者の自宅近くで実施し、まずは自宅から出てもらい、その次にスポーツセンターに来てもらうという取組は重要である。 ◎ 障害者スポーツ指導員の増加と、健常者と共にスポーツができる環境整備の両面を進めていかないとけない。 ◎ スポーツ弱者に対する振興策と環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ア 障害者スポーツに「競技力の向上」という文言が入った方がよい。 イ 障害者スポーツの普及(指導者の増加、組織の法人化) ウ 開発途上国の障害者スポーツの支援 エ 学校教育や総合型地域スポーツクラブとの連携による理解促進 オ スポーツを楽しみたいという意欲がある性的少数者に対して、施設(更衣室など)の整備すること、また、競技参加資格を整備すること。 	<p>(ア) 障害者・健常者が共に楽しむことのできる行事の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市心身障害者福祉センターが実施するスポーツ行事等の充実を図るとともに、ひろしま国際平和マラソンの車椅子種目を実施しますにおいて、より多くの障害者が参加できるよう、環境づくりや周知方法について検討します。 <p>(イ) 障害者スポーツの普及・振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校や関係団体との連携により、障害者スポーツの理解の促進や介助者の拡大、ボランティアの育成や指導者障害者スポーツ指導員の養成、障害者スポーツの活動場所の拡大など障害者がスポーツに親しみやすい環境づくりに取り組むこととする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ひろしま国際平和マラソンにおいて、既に、車椅子種目は実施しているため、参加者を増加させる方策等について検討する旨の文言に変更する。 ● 委員の意見は、「(ア) 障害者・健常者が共に楽しむことのできる行事の開催」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● 広島県が、「障害者スポーツ指導員養成者数を560人以上にする」と成果目標を掲げているため、本市も明確に記載すべきと考える。 ● 障害者スポーツについて、早急に障害者が地域で活動できる環境整備をする必要があること。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、本市として、障害者スポーツを推進していく必要があるため、「検討します」から「取り組みます」に修正する。 ● 委員の意見について、アは、本計画の「(3) 競技力の向上」に新たに追記することとする。また、イ(組織の法人化)については、取り組むべき課題として認識しているが、まずは競技団体の組織化を進めることが重要であると考える。このことについて、「(3) 競技力の向上」に新たに追記することとする。イ(指導者の増加)及びエは、本計画に既に記載されている。ウについて、本市が単独で行うものではなく、国の施策と考える。エについて、前段の施設整備に係る部分は今後の検討課題として承る。なお、後段は、各競技ルールに関する問題であるため、本市において判断して整備するものではないが、競技団体への働き掛けを行うことは可能であると考える。

推進施策等	委員の意見(要旨)	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等
<p>オ 地域コミュニティの活性化や国際交流の推進に向けたスポーツの振興</p>	<p>【地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 各区内で、スポーツ・レクリエーション祭を開催し、いつでも・どこでも・だれもが手軽に楽しむ市民スポーツの普及のキッカケにする。 ◎ 異世代等のスポーツ交流 <ul style="list-style-type: none"> ア シニア層と小学生との交流を学区単位で展開する。 イ 男女ペアで行うスポーツや家族単位で競えるもの等、多様なスポーツを楽しむ環境づくり。 ◎ 各区スポーツセンターの同コーディネーターは2名と少ない。5学区ごとに1名等が望ましい。 <p>【ニュースポーツの普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツを作りませんかとアイデア募集を行い、〇区発というふうになれば面白い。 	<p>(イ) スポーツセンターの特色を生かした事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員スポーツ推進委員が中心となり、地域団体や公民館等と連携し、地域のニーズを掘り起こしながら、地域の特色となる事業をの検討しますやニュースポーツの普及に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の意見は、「(ア) * 地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● ニュースポーツの普及は、事務局の課題としても挙げているので、ニュースポーツの普及に向けた取組について追記する。
<p>カ スポーツ・レクリエーション活動を支える組織や人材の育成</p>	<p>【学区体育協会の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 学区体育協会のクラブの加入率が2%台と非常に低い、部員数を倍増するといった内容を入れられないか。このままではいけないと思うので、もう一歩踏み込めないか。 ◎ 学区体育協会は、参加者が固定している。これは、スポーツだけの問題ではなく、学区体育協会だけを活性化しても良い結論にならない。学区を越えて新しいスポーツがあれば、それを応援するものがあるといいと思う。 <p>【体育指導委員活動の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 広島市のスポーツ推進委員は65歳定年であるため、なり手がおらず欠員が生じている。 ◎ スポーツ推進委員の定年制を見直しても良いと思う。 ◎ スポーツ推進委員の新陳代謝がないのなら、70歳にしてはどうか。 ◎ スポーツ推進委員が充足していないことが問題である。緊急避妊的に人数を増やすために定年を延ばすのはよいが、併せて5年、10年の間に若い世代に入ってきてもらう施策を考える必要がある。 ◎ トップスポーツや競技スポーツをした人の経験を活かせる仕組み考えてもらいたい。 <p>【スポーツボランティアの登録・派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 元気な高齢者を増やすキーワードは、「スポーツ」と「仕事」である。 1館1ボランティア事業を立ち上げ、高齢者のスポーツコーチ登用やスポーツセンター利用者によるボランティアの組織化を図る。 	<p>(ア) 学区体育協会の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域スポーツの中心的団体である学区体育協会の事業に多くの市民が参加し、事業への参加やクラブに加入する市民が増加するよう* 地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員スポーツ推進委員が連携して取り組みます。学区体育協会による組織のあり方や事業内容の検討を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区体育協会への加入者数が低い水準で留まっており、対策が必要であるため、学区体育協会のクラブ加入者数等を増加させる取組を行うことを追記する。 ● 委員の意見は、「(イ) 体育指導委員活動の活性化」に関する具体的な事業展開に対する提案として承ることとする。 なお、事務局としては、早急に定年の見直しを行い、欠員状態の解消を図るとともに、若い世代の人材発掘やアスリートのセカンドキャリアという視点も踏まえ、新たな人材の確保に係る取組を行う。 ● 委員の意見は、「(ウ) スポーツボランティアの登録・派遣」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。
<p>キ スポーツ・レクリエーション活動の場の整備・充実</p>	<p>【身近な公園等におけるスポーツ器具等の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 東区スポーツセンターの前の広場のバスケットゴール等、地域の中にスポーツをする道具がある公園は市内にほとんどないため、関係課と連携して、身近に運動やスポーツに親しむことができる環境づくりに積極的に取り組んでもらいたい。 ◎ 自転車をキーワードにし、スポーツバイクの環境整備(太田川河川敷等)をする。 ◎ 自転車や車椅子のレーサーが、競技やタイムトライアルができる多目的な場所があればよい。 ◎ 子育て世代である30歳代～40歳代がスポーツセンターに行きにくいいため、気軽にできることを始めて、スポーツに親しみを持ってもらう取組が必要である。 ◎ ヨーロッパや中国では、公園に石の卓球台が置いてある。これが、マンションの遊び場等にあると、子育てしながら子どもたちが遊ぶ場としてスポーツに親しめる。 ◎ 東京都港区は、公園に防護ネットが張られており、そこで野球等が自由にできる。 ◎ 公園にスポーツができる器具等を設置しても、子どもを一人で遊びに行かせても安心だという環境にならなければ、鳴かず飛ばずの状態になるため、見守り隊のような組織が活用できないか。 文言として、「安心して運動やスポーツができる環境」としてもらいたい。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 学校体育施設開放事業は、利用団体の固定化が進んでおり、新たな団体の参入が難しくなっている地域がある。このため、今後、高校や大学のスポーツ施設についても、クラブ活動に使用されていない時間帯を地域の団体等が利用できるよう、制度化を検討する必要がある。 	<p>(エ) 未利用地等のスポーツ活動の場としての活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民ニーズを踏まえ、市民が未利用地等をスポーツ活動の場として気軽に利用することができる方法について検討しますを活用し、市民が、日常的にスポーツができる運動広場等の環境の整備に取り組みます。 ○ 市民にとって身近な公園等に、気軽にスポーツができる器具等の設置について検討します。併せて、子どもから高齢者まで安心してスポーツができる環境づくりについて検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しく土地を整備することは財政上困難であるが、本市の未利用地等を活用して、市民が、日常的にスポーツ等ができる運動広場等の環境の整備に取り組んでいく。 ● 新たに、スポーツ設備等の整備について追記する。 なお、都市公園法及び広島市公園条例、又は予算の都合等もあることから、「検討します。」という文言とする。 ● 平成23年3月、第2次広島市安全なまちづくりの推進に関する基本計画が策定されており、同計画の防犯力を高める自主的な防犯活動における事業計画として、次のことを掲げている。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地元町内会や民間企業に対し、公園における見守り活動への参加を働きかけ、公園内の安全を確保する。 (2) 子どもが公園を利用する時間帯に花壇の世話などの活動を実施するよう働きかけ(身近な公園再生事業に取り組む団体への働きかけ) (3) 子どもが公園を利用する時間帯に巡回等を実施するよう働きかけ(街区公園清掃等奨励制度に取り組む団体や指定管理者への働きかけ) 当該活動が拡大していけば、公園で遊ぶ子どもも増加していくと考えられることから、「安心してスポーツ等ができる環境」という文言を盛り込むこととする。 ● 委員の意見は、「(イ) 学校体育施設の開放」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。

推進施策等	委員の意見(要旨)	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等		
(2) 学校における体育・スポーツの充実	<p>【数値目標2の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 広島県の数値目標(体力合計点の全国1位を目指す)のように、体力の伸びが客観的に見える数値目標に変更する。 ◎ 1種目平均を上回るか下回るかで割合が大きく変動する。 ◎ 目標数値は65%とし、括弧書きで、小学生なら何種目中何種目以上といった分かりやすい形で表記する。 	<table border="1" data-bbox="1448 170 2065 352"> <tr> <td data-bbox="1448 170 1561 352">数値目標</td> <td data-bbox="1561 170 2065 352"> <p>新体力テスト 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(高等学校は新体力テスト)の結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を50%、小学校は7/8種目、中学校・高等学校は7/9種目以上にします。</p> </td> </tr> </table>	数値目標	<p>新体力テスト 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(高等学校は新体力テスト)の結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を50%、小学校は7/8種目、中学校・高等学校は7/9種目以上にします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 既に現行計画の数値目標を達成しているため、次のとおり数値目標の見直しを行う。 (ア) 広島市スポーツ振興計画策定時(平成23年3月)の指標の考え方 平成23年3月、本市は「広島市スポーツ振興計画」策定時、学校における体育・スポーツの充実を図る指標として、文部科学省が、国民の体力・運動能力の現状を明らかにすることを目的として実施している「新体力テスト」の結果を用いることとし、具体的な数値目標は、広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を50%以上とした。 (イ) 今回の見直しにおける目標設定の考え方 平成24年3月、国が「スポーツ基本計画」を策定し、幼児期からの子どもの体向上方策の推進に当たっては、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(対象:小学校第5学年及び中学校第2学年の全児童生徒)」に基づく体力向上のための取組の検証改善サイクルの確立を促進するよう定めたことから、今回の見直しにおいて、学校における体育・スポーツの充実を図る指標として、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を用いることとする。 ただし、高等学校においては、当該調査が行われていないため、これまでどおり「新体力テスト」の結果を用いることとする。 具体的な数値目標については、小学校及び中学校は、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果の過去最高値をそれぞれ1種目上回ることを目標として、「広島市の平均値が全国の値を上回る種目の割合を小学校7/8種目以上、中学校7/9種目以上」とする。また、高等学校(高等学校第2学年)は、「新体力テスト」の結果の過去最高値を上回ることを目標として、「広島市の平均値が全国の値を上回る種目の割合を7/9種目以上」とする。 なお、現行の数値目標は百分率で表記しているが、より分かりやすくするため、今後は種目数による表記に変更することとする。
数値目標	<p>新体力テスト 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(高等学校は新体力テスト)の結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を50%、小学校は7/8種目、中学校・高等学校は7/9種目以上にします。</p>				
ア 子どもの体力向上等に向けた運動・スポーツ活動の促進	<p>【子どもの体力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 日本の子どものスポーツ活動の始期は、通常、小学校の体育の授業からとなっている。現在でも、Do スポーツ体験事業などにより、小学生にトップアスリートとのふれあいの機会を提供しているが、学校体育の授業そのものを充実・強化し、外部の専門家を活用し、適切な指導が入ることにより、優秀な選手へと成長していく子どもを発掘することができると思われる。 <p>【運動部活動の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 中学校にない運動部の新設等を求める声があっても、練習場所の調整、指導者及び顧問の不在を理由に校長が認めない場合が多いため、運動部の新設等を実現できるような配慮してほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の意見は、「(ア) 子どもの体力向上に向けた取組」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● 委員の意見は、「(イ) 運動部活動の活性化」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 		
イ 学校体育施設の整備・充実					
(3) 競技力の向上	<p>【数値目標3の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ふるさと選手を含めた割合に変更する。 ◎ ふるさと選手を含める方法に変更するのであれば、ふるさと選手に対するサポート体制が必要である。遠征費の助成がいまいち分からないが、県と調整をお願いしたい。 ◎ 平成27年度の国体の広島県の順位は、21位と惨敗であった。ただ、広島市出身選手がたくさん出場すればよいということではない。 ◎ 広島市の役割や広島市でないとできないことはあると思う。 ◎ 70%は現実的でないので、65%くらいでどうか。しかし、意気込みも示す必要がある。 	<table border="1" data-bbox="1448 1423 2065 1522"> <tr> <td data-bbox="1448 1423 1561 1522">数値目標</td> <td data-bbox="1561 1423 2065 1522"> <p>国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む)の割合を50.65%以上にします。</p> </td> </tr> </table>	数値目標	<p>国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む)の割合を50.65%以上にします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員から、ふるさと選手に対するサポート体制が必要である旨の意見を頂いているが、本市では一般の広島県代表選手に対する支援事業を実施しておらず、ふるさと選手だけに特化した事業を実施することは困難である。 したがって、これまで以上にジュニア選手の競技力向上に対する事業を充実させて、将来、ふるさと選手として県代表になれる有能な広島市出身選手を数多く育成することをもって、目標数値にふるさと選手を加える理由とする。 ● 広島市の役割は、素質・能力のあるジュニア選手を発掘・育成することと考えられることから、このことについて、第4章-(3)-ア-(ア)に追記することとする。
数値目標	<p>国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む)の割合を50.65%以上にします。</p>				
ア ジュニア選手の育成・強化	<p>【ジュニア選手の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ジュニア選手の育成・強化及び成長期のジュニア選手のサポートは、いずれも県との連携及び調整が重要であり、県と市が別々の競技力向上策を練るよりも、県市一体となった強化策の方が無駄はない。市は、県の助成対象以外に補助金を出す方が効果的であり、制度の検証が必要である。 ◎ 強化の現場では、実質的には県も市もない。 ◎ 競技団体等において、将来、有望な選手を計画的に育成することができる仕組みをつくる必要がある。 	<p>(ア) ジュニア選手の強化練習・指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県や競技団体、学校運動部等の連携により、素質・能力のあるジュニア選手を発掘するとともに、強化合宿の開催や遠征等の競技力向上対策事業を実施します。 ○ より多くのジュニア選手が、将来、国民体育大会等の全国規模の大会で活躍することができるよう、広島県や競技団体、広島市中学校体育連盟、広島市小学生体育連盟、広島市スポーツ少年団等の関係団体と連携し、小学生から高校生まで計画的に育成する仕組みなど、一貫した指導体制の構築に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ジュニア選手の育成・強化及びサポートについて、競技団体等の意見を伺いながら、広島県と連携して推進していくことを明確に記載する。 委員の意見にもあるとおり、広島県と連携して推進を図ること、また、ふるさと選手に対するサポート体制の構築を行うことにより、成績の向上に寄与したいと考える。 		

推進施策等	委員の意見(要旨)	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 沼田高校体育コースの強化対象競技の多くは結果を出せておらず、県内や市内の強豪校と競合しており、他競技の方が効果的な強化・育成ができると思う。県と調整して強化競技の交通整理をすることで、さらなるジュニア育成につながると思われる。 ◎ メディカルサポート事業の対象種目を増やすことにより、マイナーな競技においても国体の好成績に繋げることで、実質的な競技力向上に繋がることが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジュニア選手の競技力向上に向けて、沼田高等学校体育コースにおいて、体育指導担当講師を配置するなど、指導体制や練習環境の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員指摘のとおり、今後、沼田高校体育コースの充実を図る必要があると考えている。 ● 委員の意見は、「ジュニア選手指導者へのメディカルサポート事業」の運営に対する提案として承り、今後の事業展開に活かすこととする。
<p>イ 選手強化に向けたサポート体制の構築</p>	<p>【ふるさと選手を含む国体選手への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ふるさと選手を含めるとすれば、選手に対するサポート的なものが必要である。県と調整をお願いしたい。 ◎ 国体は企業チームのPRにならない。市から激励があれば、企業の予算付けの理由も立つ。スポーツ団体から企業チームに国体を頑張るようアクションを起こすためにも、意識付けとしてスポーツ団体のことも網羅すると良い。 ◎ 国体は、数値目標になっているので、出場選手を広報紙で写真付きで紹介できないか。サポート体制を強化するということ、具体的には出せないにしても、積極的に検討していくということも計画に入れる必要がある。 ◎ 国体に出場する県選手に占める広島市選手の割合は伸びているが、肝心の国体での広島県の成績は年々低下しており、この目標がアウトカム指標となっていない。広島市選手の割合を増やすとともに、国体の成績向上に資する取組が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 委員から、ふるさと選手に対するサポート体制が必要である旨の意見を頂いているが、本市では一般の広島県代表選手に対する支援事業を実施しておらず、ふるさと選手だけに特化した事業を実施することは困難である。したがって、これまで以上にジュニア選手の競技力向上に対する事業を充実させて、将来、ふるさと選手として県代表になれる有能な広島市出身選手を数多く育成することをもって、目標数値にふるさと選手を加える理由とする。【再掲】
<p>ウ 障害者スポーツの競技力の向上への支援</p>	<p>【障害者スポーツの競技力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ スポーツ弱者に対する振興策と環境整備【再掲】 ア 障害者スポーツに「競技力の向上」という文言が入った方がよい。 イ 障害者スポーツの普及(指導者の増加、組織の法人化) 	<p>ウ 障害者スポーツの競技力の向上への支援</p> <p>(ア) 障害者スポーツ選手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県や競技団体等と連携し、素質・能力のある選手の発掘・育成を推進します。また、全国大会への選手の派遣等を通じて、障害者スポーツの競技力向上を支援します。 <p>(イ) 障害者スポーツの体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者スポーツ指導員の養成や競技団体の組織化などを進めることにより、障害者スポーツの体制整備に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることから、「障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進」と併せて、障害者スポーツの競技力の向上に向けた取組が必要であるため追記する。 ● 広島県スポーツ推進計画(基本方策3) 障害者の競技スポーツにおけるアスリートの育成)において、「障害者スポーツの競技力強化につながる取組の推進」や「競技団体の組織化などの体制整備」について記載があることから、本市においても同様に取組むこととする。
<p>(4) まちの活力創出に向けたスポーツの振興</p>	<p>【数値目標4の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成26年度の実績が39.8%であり、50%以上の目標設定は厳しい。現況を踏まえ、据え置きとする。 ◎ カーブやサンフレッチェの盛り上げを考慮すると上げてよいと思うが、リピーターが多いと思われる。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 平成26年度の実績を見ると、現在の数値目標の達成が厳しい状況である。このため、数値目標は据え置きとし、目標年度に目標を達成するため、引き続き、推進施策を充実させるよう取組むこととする。
<p>ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたスポーツ振興に関する事業の推進</p>	<p>【東京オリンピック開催に係る取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 事前合宿の誘致、スポーツと平和に関する国際会議の誘致、市民意識の高揚は載せたい。 ◎ これから5年間で五輪代表級の選手を育成するのは非現実的である。現実的にはキャンプ誘致であり、交渉ルートのある単一競技に絞り込んだ方が現実性は高まる。出場権を得た場合との前提つきで早めの交渉をすべきである。また、東京五輪推進室長の平田竹男氏など、広島ゆかりの組織委関係者とのパイプ構築も不可欠となる。 ◎ ジュニアにスポーツが好きになってもらえるよう、バスをチャーターして東京オリンピックに派遣して生で見てくるといような、オリンピック後に続いていくような企画をどうするか。レガシーを広島市としてどう捉えるかと思う。 ◎ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けての広島市の関与について ア ジュニアの発掘・強化は東京の次のオリンピックに出場する選手の養成につながるから意味がある。 イ 事前キャンプ・合宿を誘致するため、各施設のオリンピック・パラリンピック仕様への改修、観客席・ロビー等共用部分の土足利用化への整備及び優遇措置等、他都市に負けない魅力的な条件設定をする。また、事前合宿の誘致を数か国又は数チーム確実に確保するという事を盛り込む。 ウ 平和都市広島としての平和の祭典であるオリンピックについて、聖火の採火を平和公園で行う。 エ 観光部局と連携し、海外から来る選手・観客の広島への誘導に係る計画を早急に策定する。 オ オリンピック・パラリンピック開催の成果として、ゴールボール、ポッチャ、シッティングバレーボール及び視覚障害者マラソン等のパラリンピック競技種目の普及・定着の還元を行う。 ◎ 2020年の中・高校生になる今の小学生に向けて広報活動をし、キッズボランティアの育成をする。 	<p>(ア) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会出場国・地域の事前合宿の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や競技団体等と連携し、ナショナルチームの事前合宿の誘致に取り組みます。誘致に当たっては、国際大会の実績、トップス広島の存在、平和への取組及び魅力的な観光資源などのアピールポイントを関係機関等と連携して発信するとともに、ボランティアの育成等、受入体制の充実について検討します。 <p>(イ) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機としたスポーツに対する市民意識の高揚等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、スポーツに対する市民意識の高揚を図る取組について検討します。 ○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の終了後においても、継続してスポーツに親しむ市民の増加やジュニア選手の競技力向上への意識高揚につながる取組などについて検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組として、委員の委員を総合的に勘案し、①事前合宿の誘致、③市民意識の高揚、④ジュニア選手の意欲高揚の3点を盛り込むこととする。各委員の具体的な意見は、今後の事業展開の参考とさせていただきます。なお、「スポーツと平和に関する国際会議の誘致」については、「イ 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等」の「スポーツと平和に関する調査・研究」の項目に盛り込む。

推進施策等	委員の意見(要旨)	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等
<p>㉜イ 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等</p>	<p>【国際的・全国的なスポーツ大会の誘致】</p> <p>◎ 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致の項目において、障害者スポーツが遅れているので、「障害者スポーツの全国大会を積極的に誘致するという」文言を盛り込むことはできないか。</p> <p>◎ 昨年、障害者セーリングの国際大会にパラリンピック選手が来たが観客が少なかった。開催者や市がPRし、盛り上げる必要がある。</p> <p>◎ 全国的にスポーツツーリズムといわれ、スポーツが観光振興の一翼を担う動きが盛んになっている。市は、宿泊場所及び屋内外スポーツ施設を多数備えていることから、広島県と連携してスポーツコミッションの設立を行い、スタッフを配置して積極的なコンテンツ拡充の取組を行う必要がある。</p> <p>【広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援】</p> <p>◎ 広島は選手を大事にしてくれる街ということが定着していくと大会は盛り上がっていく。選手を大事にするという環境が作れるようになればよい。そうしたことを計画の中で触れほしい。</p> <p>◎ 東京五輪後、都内には新たな競技施設が新設されているため、地方都市での国際大会や主要大会の開催がますます難しい状況に追いやられる。このため、広島で大会を開催し続けるためには恒常的な大会開催が求められる。</p> <p>【オリンピックのあり方を含めたスポーツと平和に関する調査・研究】</p> <p>◎ 計画策定時と状況が変化したため、「オリンピックを含めた」の文言を削除する。</p>	<p>(ア) 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致</p> <p>○ 「JOCパートナー都市協定」を活用するなど関係機関や競技団体との連携により、障害者スポーツを含む国際的・全国的なスポーツ大会を誘致します。誘致に当たっては、観光部局等との連携により、広島で大会を開催するメリットなどの効果的なPRや受入体制の充実について検討します。</p> <p>○ 誘致した国際的・全国的なスポーツ大会について、より多くの市民に観戦してもらえよう、関係団体等と連携し、積極的なPR活動を行います。</p> <p>(ウ) 広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援</p> <p>○ ヒロシマ国際ハンドボール大会や、Peace Cup 国際交流車いすテニス大会、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会等の国際大会、や全国大会について、参加する選手・役員等に対する受入体制の充実を図るとともに、ホームページや広報紙等において、積極的にPR活動を行い、より多くの市民に観戦してもらえよう取り組みます。 また、大会の開催効果がより発揮されるよう、補助金の交付、ホームページや広報紙によるPR、スポーツボランティアの派遣など必要な支援を行います。</p> <p>(オ) オリンピックのあり方を含めたスポーツと平和に関する調査・研究</p> <p>○ オリンピック本来の平和の祭典としてのあり方やスポーツを通じて世界恒久平和を訴える事業の実施について調査・研究します。</p> <p>○ 広島県を始め、公益財団法人日本オリンピック委員会等と連携して、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に合せてスポーツと平和に関する国際会議を開催することについて検討します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国大会等の誘致については、平成27年9月に第2回スペシャルオリンピックス日本全国バスケットボール大会が開催されるなど、本市として実現可能な取組を行っている。今後の誘致については、誘致可能な大会等について具体的に把握していないため、情報収集を踏まえて検討したい。 ● 委員の意見のとおり、大会の誘致だけが目的ではなく、誘致した後の市民の盛り上がり等も重要であることから、大会開催に係るPR活動について追記する。 ● 委員の意見は、「(ア) 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● 委員の意見のとおり、選手を大事にする環境づくりを行うことは重要であり、「受入体制の充実を図ること」、「より多くの市民に観戦してもらおうこと」について追記する。また、受入体制の充実を図ること等により、恒常的に広島で開催されるよう取り組んでいきたい。 ● 現在、継続的に開催されている障害者スポーツ大会についても、受入体制の充実や観戦者の増加を積極的に図り、大会の定着や市民意識の高揚に取り組む必要があると考えている。 ● 計画策定時、オリンピックの広島開催を目指しており、計画に盛り込まれていたが、状況が変化したため「オリンピックを含めた」の文言を削除する。 ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機として、「スポーツと平和に関する国際会議の誘致」について積極的に行いたいと考えている。このことについて、委員からも賛同する意見があった。
<p>㉜ウ トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興</p>	<p>◎ トップスの応援について、区役所やスポーツセンターの取組実績があるので、そういうことを計画に入れ込んで充実させていく。</p>	<p>(ア) * 地域スポーツ振興担当コーディネーターによるスポーツセンターを拠点としたトップス広島の応援気運の醸成</p> <p>○ * 地域スポーツ振興担当コーディネーターが学区体育団体各区連合会等地域団体と連携し、各区分で行っている地域に拠点を置くチームへの重点的な応援体制を各区分で行うことにより、各区分単位での市民応援体制の確立にの充実に取り組みます。</p> <p>(カ) 民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応した支援検討</p> <p>○ 民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応して必要な支援に取り組みます。サッカースタジアム検討協議会の提言を踏まえ、広島に相応しいサッカースタジアムの整備について検討します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 応援体制の実績が上がってきているため、「応援体制の確立」から「応援体制の充実」に変更する。 ● 計画策定時と状況が変化し、現在、サッカースタジアム検討協議会において、広島に相応しいサッカースタジアムの整備について検討されているので、文言を修正することとする。